

## 令和8年度第1回 川崎区地域デザイン会議を開催しました (外国人労働者の受入れに係る官民連携協議会準備会議①)

川崎区では、区が取り組んでいる地域課題対応事業の分野ごとにテーマを設定して、地域デザイン会議を実施しています。

令和9年4月に予定されている育成就労制度の施行に向けた環境整備として、外国人労働者の日本語教育や定着支援等を実施する「官民連携協議会」の設立に向けて準備を進めており、今回は「日本語教育」をテーマとして、市内に事業所を有する企業を対象としたミニセミナーとワークショップ形式の意見交換会を開催しました。

1 日 時 令和8年6月23日(火) 15時30分～17時00分

2 場 所 川崎区役所12階 第3会議室

### 3 内 容

#### (1) ミニセミナー「外国人材を「戦力化」するための定着施策と日本語教育の最適設計」

講師：一般財団法人日本国際協力センター 多文化共生事業部長 兼 JICE日本語教育・就労支援センター長 齊藤 牧 様

- ・ 外国人雇用の現状と企業が抱える悩み
- ・ うまくいかない？定着の課題と企業が実践している施策
- ・ 日本語教育の役割とよくある誤解
- ・ 効果的な日本語教育の設計とは

ミニセミナーを受講した上で、自社の状況についてワークシートを使って状況を整理し、ワークショップを行いました。



## (2) ワークショップ「外国人従業員の日本語教育について」

自社の課題や今後取り組みたいこと等について意見交換を行いました。

### 4 参加者 市内に事業所を有する企業11社・14名

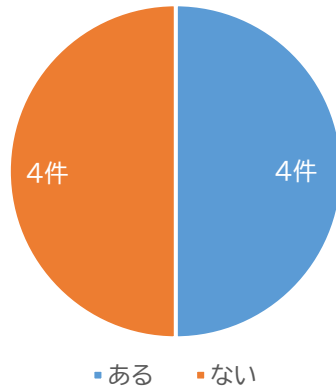
### 5 意見交換結果

- 業務上は日本語を必ずしも必要としない場合であっても、病院にかかるときや役所での手続き時、災害のときなど、生活面での日本語習得の必要性がある。
- 日本語を学べる機会を充実させてほしい。
- 外国人材は単独では不安を感じやすいため、相互に支え合う環境が重要
- 日本人側が外国人材を取り巻く状況を理解することが、外国人材の不安の軽減につながる。
- 日本人がどのように外国人材に寄り添うことができるかが、会社としてダイバーシティや持続可能性を考える上での重要な課題である。
- 外国人材に対しては、外国人先輩社員の支援が有効だが、その人が業務や社風をどの程度理解しているかといった点や日本語能力に不安があっても、頼らざるを得ない状況もある。
- 社内における外国人社員との情報共有・連絡手段として、翻訳機能を有する無料で利用できるビジネスチャットを活用している。
- 給料表の見方や36協定など、日本の社会保障・税制や制度について説明、理解してもらうのが難しい。多言語の見本などがあると説明しやすいのではないか。
- N1(日本語能力試験の最も難易度の高いレベル)を持っていても日本語でコミュニケーションが取れない人への日本語教育が課題

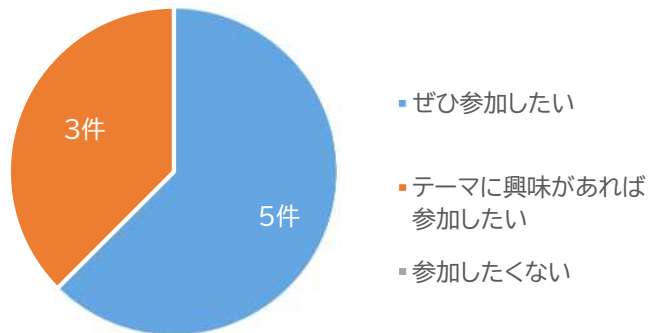


## 6 参加者アンケート

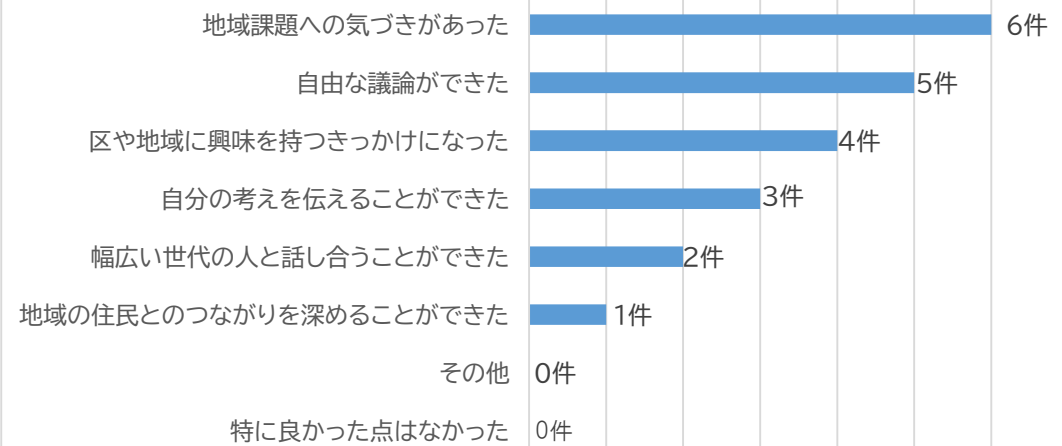
(1)これまで行政(国・県・市区町村等)が主催する会議に参加したことはありますか。



(2)同形式の会議(テーマは変更)が開催された場合、また参加したいですか。



(3)本日の地域デザイン会議に参加して良かった点はなんですか。【複数回答可】



7 今後の取組 いただいた御意見や御提案は、今後の取組の参考にいたします。  
次回は「職場コミュニケーション」をテーマに8月末に開催する予定です。